

東日本大震災 KCCJ 対策委員会
第2回四者協議

日時：2011年6月7日（歌）13時30分～16時55分
場所：インターボード会議室（日本キリスト教会館5F）

司会：洪性完総幹事

1. 礼拝

祈祷：
聖書：

2. 出席確認

出席：
陪席：許伯基

3. 前回会議録の確認
別紙1参照

4. 活動報告

1) 総会・社会委員会
別紙2参照

2) 青年会全国連合会
別紙2参照

3) 関東地方会
当日配布

4) 全国教会女性連合会
当日配布

5. 案件討議

1) 今後の活動計画に伴う方向性について

2) 募金の活用について

科目	収入	支出	備考
総会募金	6,173,094		
韓国	4,178,704		
ボラティア		600,000	
関東地方会		4,700,000	
KCCJ 対策委員会		55,290	
交通・諸経費		417,066	受け取りに行ったりなど経費
合計	10,351,798	5,772,356	
残額	4,579,442		

3) その他

別紙1；前回会議録の確認

第1回震災対策四者協議

日時：2011年4月14日 13時30分～16時55分
場所：インターボード会議室（日本キリスト教会館 5F）

司会：洪性完総幹事

1. 礼拝

祈祷：朱文洪牧師

聖書朗読：詩編 27:7-8, ロマ 14:7-8

一同黙祷

2. 出席確認

出席：金東洙 韓聖炫 金根湜 朱文洪 洪性完 金貞姫 金耿昊

陪席：許伯基 傍聴：韓在文

洪性完牧師が、四者協議に至るまでの経過と、この会議の協議事項について説明を行った。

許伯基牧師が、韓在文牧師の陪席の承認要請を行い、その理由を説明した。「在日大韓基督教会独自の被災支援ボランティアを立ち上げるにあたり、すでに被災地でボランティア活動してきた韓在文牧師の証言を聞くことが助けになる。」

金東洙牧師より異議。韓在文牧師の陪席要請をする資格は許牧師にはない。そもそも、許牧師は何の資格でここにいるのか？

洪性完牧師より答弁。韓在文牧師の陪席要請は、許伯基牧師の推薦をもとに総幹事が行った。また許伯基牧師は総会の幹事として、多忙な総幹事に代わり、被災支援に関する窓口としての役割を担当すること、またこの協議会の書記の役割を依頼した。この二人に関する陪席を要請したい。

金根湜牧師：陪席の権限はどれほど与えられるのか？ 韓在文牧師に関しては、証言が必要などきだけ呼び出す程度でよいのではないのか？

洪性完牧師と金東洙牧師の間で、四者協議の出席資格（関東地方会震災対策委員すべてが出席するべきか？ それとも代表者だけなのか？）についての議論があったが、これについては別途議題として取り上げることになった。

金根湜牧師：陪席が要請された人物を書記にするというのは理解ができない。正式な書記ではなく、行政処理を行うにあたって必要な書記の役割を行う、という線ならば、理解できる。

◆許伯基牧師については陪席と行政上の書記の担当、韓在文牧師については傍聴を許可することを承認した。

朱文洪牧師より、関東地方会震災対策委員会の委員について紹介するよう要請があった。

出席者について説明。金東洙牧師：対策委員長 韓聖炫牧師：対策副委員長 金根湜牧師：対策委員。さらに今回は不参加だが、関東地方会の残りの役員たち、伝道部長、社会部長、宣教協力部長がそのメンバーであることが紹介された。

3. 活動報告

関東地方会震災対策委員会の活動報告が金東洙牧師よりなされた。東北地域の視察を視察してきた。さらに、日立教会、水戸伝道所、つくば東京教会を訪問、また郡山伝道所の朴正根牧師を日暮里にて面会した。郡山の被害はひどく、場合によっては撤収しても構わないと伝えたが、本人の決心では、残って教会を守り続ける、ということだった。また各教会の被害報告を様式にしたがって提出するように要請した。

金根湜牧師が、被害報告書にしたがって以下のように報告を行った。

仙台教会：30枚もの報告書が写真と共に提出された。先々主日（4月3日）の礼拝には10名の出席者があった。教会の建物被害も心配であると同時に、福島第一原発との距離が90kmしかないため不安である。ガスが不通のため、飲食や風呂にも支障をきたしており、教会員たちはなかなか帰ってこない。師母と子女達もまだ韓国にいる状態である。報告書に寄れば、教会員の住宅のうち3棟が全破した。

山形教会：大きな被害はなく、壁に亀裂が入ったり、物が落ちて壊れたり、といった程度。

三沢教会：被害無し。

日立教会：教会の内部に多数の亀裂、また教会の建物と駐車場の間に大きな地割れができています。教会の建物に補修が必要な状態。

郡山伝道所：原発から50kmほどの地域であるので、本人は残ると言っているものの、地方会として継続して活動させていいのか？ということを実際に考えなければならぬだろう。

千葉教会：大きな被害はないが、教会内の家具が動いて大きな窓ガラスに当たり破損した。建物の5階であるため、家主が早急に修理したが、クレーン車などが投入され ¥223,850 という費用がかかり、家主から請求がかかっている。

水戸伝道所：建物（借家）が60年代の建物であるため、ダメージが非常に大きかった。建物一階の柱部分が回転してしまっている。教会部分（3階）の壁面に大きな亀裂があり、壁が手で揺らせるほどゆるんでいる。天井が落ち、電子ピアノ、プロジェクターなど、高価な教会備品が破壊された。建物自体が倒壊の危険があるため（家主は連絡不能）教会は立ち入り禁止にし、講壇や長椅子などの教会備品はすべて別に借りた倉庫に搬入し、保管してある。信徒たちはほとんどが一時帰国し（飛行機の都合がつかなかった信徒たちのために、大阪南港まで韓牧師が直接送っていった）4月10日の礼拝出席人数は3人だった。

つくば：一階壁面の梁が通っている部分に大きな亀裂があり、余震による影響が心配である。礼拝堂や1階食堂の壁板のつなぎ目部分にひび多数。備品被害はなし。一日でも早く建物の診断を受けたい。

北上：目立つ被害はないが、一時帰国した信徒が帰ってこない。現在は1家庭のみが残っている。地震によるストレスを受けた牧師の子ども（幼児）が鼻血、卒倒などの症状を見せており、牧師のみが残り、家族は韓国に待避させている。

金根湜牧師：建物の修理を見積もるにも、専門家による安全診断がまず必要だ。日本基督教団関東教区から建物の安全診断の支援の話があったが、どうなったか？

韓聖炫牧師：教団大宮教会の松下さんという方が関東教区の建物診断に当たっているが、現在非常に多忙なため、大きく被害を受けた建物でない限り、時間がかかるということである。

全国教会女性連合会会長 金貞姫勸士より報告があった。女性会では、総務が韓国での研修中であつたので、震災対策の方向性について詳しいことは決定していない。募金は総会と一本化せず女性会独自で集めており、総務が韓国からの募金を預かってきた。募金の用途についてはこれから決定する。関東地方女性会（会長：李美和執事／西新井 副会長：金芳植長老／横浜）と連携して震災対策に当たりたい。関西の方からも支援活動に参加したいという声がある。青年たちとも連携しながら、女性として出来る活動をしたい。具体的には来週に予定されている任員会で話がなされるだろう。

朱文洪牧師：個教会女性会の資料を見てみると、全国女性会からの募金要請が来ている。ということは募金が総会と女性会の二元化をするということか？出来ることなら一本化する方向で考えて欲しい。

金東洙牧師：5月6日の関東地方会定期総会場で、教団の4教区からの代表が出席したときに、総会に集まった募金から、慰労の意味で一教区当たりいくらかつの決まった金額を渡すことが出来るよう、総幹事に依頼したい。

青年会全国協議会の代表委員 金耿昊氏から報告があった。4月1～2日にかけて、東北教区学生センター・エマオでの支援活動を視察・参加し、全協から青年を送れるかどうか可能性を模索してきた。また4月9日の中央委員会で、震災対策にどのように参与するか、ということをお話した。関東圏の青年たちは、自分自身の生活に対する不安感をぬぐい切れておらず、それをサポートしていくことが必要である、ということ、予算と人材の両面で力不足である全協自体が支援ボランティア・プロジェクトを立ち上げていくというのは非常に難しい、という結論が出た。機会があれば個人的に参加したい、という青年は何人かいるので、その青年たちをエマオや仙台キリスト教連合に責任を持って送り出す、何が必要で、どこに派遣する

べきか、ということのとりまとめを全協がするという、各地方からボランティアに参加した青年たちの報告会を各地方ごとに開く、という方向性は確認された。

社会委員長 朱文洪牧師より報告があった。各地方会でボランティア参加の呼びかけをするという方向で考えている。神戸から実際にボランティア参加の申し込み（アメリカ人ひとり）が来ている。また、避難所が必要な家庭について、情報を集めている状況であり、対象を在日大韓基督教会の信徒に限るのか、それとも日本人全般を含めるのかについては、ここで議論したい。

洪性完牧師：関東地方会の信徒から、避難所への受け入れを要望する声はあるか？

金東洙牧師：ない。その理由として、個人的に公共の避難所から他に移った場合、公共の被災支援の対象から外れ、恵沢を受けられなくなる、という問題がある。

金耿昊：被災民住宅支援についてはNCCがホームページで情報の提示を行っているので、NCCへ在日大韓の情報を開示していけばよい。

韓在文牧師より、ボランティア活動の報告があった。4月3～7日の日程で、仙台方面に金聖泰伝道師（武庫川教会）と一緒にやってきた。事前に何の情報もなく仙台入りしたところ、仙台にある三つの韓国人教会には牧師がおらず、そのうちのサラン教会では担任牧師は不在だったが、GMS 派遣の宣教師が代わりに教会を守っており、そこを宿所とすることになった。4月4日の朝、西部地方会から裴明德牧師とその息子、韓澤柱牧師の3人が合流したので、共に活動をした。津波で流された教会に十字架を立てる作業をしたり、石巻の隣の地域で被災住宅の片付けの支援をしたりしたが、非常な重労働だった。自分たちが入った地域は、すでに地震・津波発生から3週間ほどが過ぎたにもかかわらず、市役所から誰も派遣されてきていない地域であり、キリスト教団体が支援活動を行ったのみであった。そのため住民は自分たちの一行を「キリストさま」と呼び、とても感謝していた。避難所も回ってみたが、救援物資はすでに潤沢であり、足りないのは人力である。また、被災した自宅を片付けているお年寄りに話を聞いたところ、避難所に寝泊まりしており、朝食と夕食は避難所で取っているが、家を片付けに来る昼間は食事を届けてくれる人がいない。昼食にあたたかい食事がほしい、という要望があった。それで、個教会の女性信徒たちと「行って一食ぐらいは温かい食事を準備してあげよう」という話をしているところだ。

仙台入りする前に、いわき市近辺の海岸沿い（原発から35km 付近／水戸から1時間10分ほどの距離）にも寄ってみたが、被害状況はテレビに取り上げられやすい石巻となんの変わりもないにもかかわらず、復旧活動をしている人が見えなかった。宿所や拠点の確保に苦勞する仙台・岩手方面より、いわきなど南の被災地域を支援対象にするべきではないか、という思いを持った。

実際に作業をしながら、必要だった道具は、一輪車、防水手袋、長靴、厚い寝袋、トラック、ハンマー、プライヤー、ペンチ、のこぎり、スコップなどの工具であった。もし総会で支援をするなら、何人か単位の組をつくって、そこに必要な道具のセットを携行させ、必要な物はその都度購入して補充する方法がよい。また、仙台地域であれば仙台教会、いわき方面であれば水戸か日立に本部を作り、そこに必要な道具を置いて拠点とするのが有効だろう。

仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク代表の吉田牧師にもお会いしたが、支援の方向性を実に体系的にしっかりと構想しておられた。吉田牧師は、ネットワークの働きの中に韓国人牧師が見られないことを残念がっておられた。仙台教会の徐東一牧師は日本語が不足しており、仙台教会自体の被害状況もあるので、とてもそこに目を向ける余裕がない、ということだった。もし可能であれば、距離的には遠いが、許牧師が現地で働きを担ってくれたら、と思った。韓国から物資や視察はやってくるが、それを中継したり通訳したりする人材がいない、ということで、申し訳ない気持ちを持った。

金根湜牧師：吉田牧師とはいったい誰か？ これは私個人の質問ではなく、韓国監理教会からの質問だ。

洪性完牧師：吉田隆牧師は日本キリスト改革派仙台教会の牧師であり、この教団は韓国のイエス教長老会合同、高神派と宣教協約を結んでいる。

金耿昊：4月1日の仙台キリスト教連合の会合で、川上直哉牧師から「韓流スターを呼んで、慰問と募金活動をさせることは出来ないか？ それもまた、ボランティア活動とはちがった意義深い活動である」と要請があった。

4. 確認及び協議事項

第4回常任委員会において決定した震災対策に関する事項について、洪性完牧師が朗読、確認をした。

1) 関東地方会対策委員会：1. 被災地の各教会及び信徒の支援 2. 日本における宣教協約教団の各教区及び中会の支援

2) 総幹事：1. NCCJ支援にあたる 2. 仙台キリスト教連合被災支援ネットワークの支援にあたる

3) 社会委員会及び青年会全国協議会：ボランティア活動及び避難場所の支援

洪性完総幹事が、以上の事項の確認をしつつも、担当をはっきりと分離してしまうのではなく、お互いが連携を取らなければならない点を強調した。また、支援活動をとりまとめる窓口の役割が必要であることを述べた。

i ボランティア活動

許伯基牧師：以上の各活動（在日大韓の被災地各教会及び信徒の支援は除く：関東地方会が担当）は、不可分離の関係であるため、この4者協議会が決定の主体にならなければならない。またこの協議会の決定にしたがって、実務を遂行する主体が一本化されなければならない。また、ボランティア活動を立ち上げるにあたって、自分が実務を引き受ける場合、一人ではとてもこなさきれないので、ボランティア業務に限って、韓在文牧師も担当者として、ボランティアの実務と一緒に引き受けてもらいたい。

金根湜牧師：ボランティア派遣はあくまでも正式なルート（自治体や教区センター）を通じて行わなければならない。また、被災地支援活動には専門的な道具や服装などを完全に装備することが必要であり、また実際に何日も仕事を休んでボランティアを志願する人たちがどれほどいるかも疑問だ。在日大韓でボランティア活動を立ち上げたところで、それが効果的なのか？ 持続することができるのか？ については憂慮を禁じ得ない。どうしても在日大韓基督教会独自の活動を立ち上げなければならないのか？ 各個人が公共機関を通じて行うボランティア活動でも、在日大韓の名前は残るので、十分ではないか？

韓聖炫牧師：日本基督教団の東北教区、奥羽教区、関東教区の対策委員会と連絡を取り合いながら、まだ支援活動が活発でない地域（茨城など）に共同して活動を行う方法を取るべきではないか？

韓在文牧師：仙台方面にはすでに多くの人が入っている。福島、茨城は同じような被害を受けているにもかかわらず人手が足りない。どのみち活動を展開するなら、より近く、より少ない費用で活動することが出来る関東方面ではないか？ そうすれば、水戸教会を拠点として活動することができるし、食事の問題なども解決しやすくなる。

許伯基牧師：日本基督教団の各教区との連帯を中心にするべきか？ それとも仙台キリスト教連合か？

金東洙牧師：日本基督教団の各教区と連帯を取るべきだ。

洪性完牧師：そういう風にはっきりと「どちら」とする必要はなく、その時々によって、必要な協力を行うべきではないか？ 仙台キリスト教連合には、NCCや教団も含めてた日本の各教団が名を連ねているので、無視できない。また大きな教団は自前で被災教会を支援する力があるが、その力のない小教団や単立教会、また日本に一般被災民たちへの支援を仙台キリスト教連合が担っていることを考えると、その活動に参加することは意義深い。どちらか一方に決めるのではなく、両方の支援要請を比べながら、その時の状況に合わせてこちらで派遣地を選択して人を送るべきである。そういう判断については、許牧師、韓在文牧師に実務を任せて判断させ、募金の配分などについては4者協議会の決定にしたがって行う、という体制を整えておけば、いちいち4者協議会で細かい部分を協議する必要もなくなる。

金東洙牧師：ボランティア活動の担当はあくまでも総会の社会委員長が責任を持たなければならない。それを支援するのが青年会、関東地方会社会部長、そして許牧師と韓牧師とし、必要な事項はこのメンバーで協議しながらボランティア活動を進めていくのはどうか？ 責任は社会委員長が任されるべきだ。

◆以上の論議を経て、被災支援ボランティア活動については総会社会委員長を責任者とし、全協代表委員、関東地方社会部長、許伯基牧師と韓在文牧師が協議メンバーとなることが承認された。

ii 募金の配分の割合

洪性完牧師より、総会内の被災教会や被災信徒への支援金と、各宣教協約団体や被災支援活動団体への支援金に関して、配分の比率を決めることが提案された。また許伯基牧師から、海外教会（アメリカ、カナダ、オーストラリア）からの募金は、人道的支援プロジェクトの存在が前提となっており、そのプロジェクトに関する報告が事前になければ送金自体がなされないことが報告され、募金の配分の中に被災支援ボランティアの予算も配当しなければならないことが言及された。

金根湜牧師：ボランティアというのは、基本的にすべて自費でおこなうのが基本である。ボランティアに参加するのに宿所や食事、装備が提供される、というのであれば、それはすでにボランティア活動ではない。ボランティア活動のために経費を計上する、というのは、好ましくない。

金貞姫勸士：女性会で募金をしているが、まだ具体的な用途は決まっていない。例えばボランティア活動で「これが必要だ」という項目があれば、提案してもらえれば、女性会の募金活動もしやすくなる。

許伯基牧師：被災支援ボランティアへの予算割り当ては、必ずなければならない。もしそれがなくなるのなら、募金してくれた海外教団に報告のしようがなくなる。もしボランティア活動に予算を計上できないのなら、海外教団からの募金は受け付けるべきではないし、すでにもらったものは返納しなければならない。

金根湜牧師：それは報告のテクニク的な問題ではないか？ 実際に配分された内容をそのまま伝える必要はない。ボランティア活動に前もって配分を与えるのは無理である。

具体的なボランティア経費の割り振りや支給される経費・装備の線については、社会委員長の責任の下、ボランティア活動の協議メンバーで細部を決定することが総幹事より提案された。

許伯基牧師より、次のように募金の配分が提案された。

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：40%
日本基督教団被災教区、仙台キリスト教連合、NCCJなどの外部団体への支援金：30%
被災支援ボランティア活動の予算：30%

朱文洪牧師より、次のように募金の配分が提案された。

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：50%
日本基督教団被災教区、仙台キリスト教連合、NCCJなどの外部団体への支援金：20%
被災支援ボランティア活動の予算：30%

金東洙牧師より、ボランティアに20%を使うのは浪費である、という意見のもと、次のように募金の配分が提案された。

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：60%
日本基督教団被災教区、仙台キリスト教連合、NCCJなどの外部団体への支援金：10%
被災支援ボランティア活動の予算：30%

金根湜牧師より、次のように募金の配分が提案された。

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：60%
日本基督教団被災教区：20%
NCCJ：10%
被災支援ボランティア活動の予算、および仙台キリスト教連合：10%

許伯基牧師より、次のように募金の配分が修正・提案された

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：55%
日本基督教団被災教区、仙台キリスト教連合、NCCJなどの外部団体への支援金：30%
被災支援ボランティア活動の予算：15%

総幹事より補足提案がなされた。この比率は何が何でも維持されるのではなく、実際の活動の状況に応じてふたたび協議し、修正することが出来る。またすべての資金が必ずしもその用途で消化されるわけではない。

朱文洪牧師：内輪のための募金の配分が50%を越えるのは、対外的に印象が良くない。募金をする人

たちの心情にも影響を及ぼす。関東地方会被災教会のための募金は50%に抑えるべきだ。

◆長時間に及ぶ議論の結果、また総幹事による交通整理のもと、以下のように配分を決定し、了承した。
ただし条件として、この比率は暫定的な物であり、再調整が可能である。

関東地方会被災教会・被災信徒への支援：55%

日本基督教団被災教区、仙台キリスト教連合、NCCJなどの外部団体への支援金：30%

被災支援ボランティア活動の予算：15%

iii 次会日程その他

◆震災対策4者協議会の次回日程を、6月7日（火）午後1時30分より開催することを合意した。

◆各教会の被害状況の一覧を4月16日（土）まで全国教会に送ることが、朱文洪牧師によって要請された。

5. 閉会祈祷

金東洙牧師が祈祷した。

別紙2；活動報告

1) 社会委員会

(1) 第一次被災支援ボランティア活動報告書

日時：2011年4月25日（月）～30日（土）

場所：宮城県東松島市東名

参加者：

許伯基（在日大韓基督教会幹事） 全日参加

李蘭英（韓国 NGO “개척자들”） 全日参加

尹鏞熙（韓国 NGO “개척자들”） 全日参加

4月25日（月）

つくばを14時に出発し、常磐道→北関東自動車道→東北道経由で仙台に到着（19時）

宿泊は東北ヘルプより紹介された浄土真宗西本願寺派の仙台別院に設置されたボランティア・センターにて。

4月26日（火）

9時に日本キリスト改革派東仙台教会に集合。東仙台教会立石牧師の指示に従い、日本国際飢餓対策機構、同盟教会、Crash Japan から派遣されたチームとともに、東松島市東名へ向かう。10時30分作業開始。午前中は池本さん宅のがれき片付けと家の中の整理、清掃。午後は松本さん宅の床下の泥かき。作業終了16時30分。

4月27日（水）

10時30分、前日と同じ現場に集合。終日、池本さん宅の床下泥かき。作業終了16時。

4月28日（木）

9時に東仙台教会に集合。10時30分作業開始。紺野さんの理髪店の庭の泥かき、および室内清掃。作業終了15時30分。17時30分、教団東北教区センター・エマオ3階にて東北ヘルプ主催の宗教者会議。18時30分に東北ヘルプ（仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク）第6回会議に出席。在日大韓の被災支援ボランティア計画についてアピール、宿泊場所の提供のお願いをした。

4月29日（金）

9時に東仙台教会。前日と同じく紺野さんの理髪店の庭の泥かき、及び室内清掃。作業終了16時。

4月30日（土）

9時15分に仙台別院ボランティアセンターを出発（献金1万円）。11時30分に郡山市ホテルハマツに到着、朴正根牧師の食事接待を受ける。14時30分にいわき市ボランティアセンター（臨時）に到着。水戸教会に投宿中のボランティア2名（武庫川教会）を乗せて、水戸教会へ。水戸教会にて韓在文牧師と打ち合わせ。つくば東京教会到着18時

(2) 第二次被災支援ボランティア活動報告書

日時：2011年5月16日（月）～21日（土）

場所：宮城県東松島市東名

参加者：

許伯基（在日大韓基督教会幹事） 3日間参加

金耿昊（在日大韓基督教会 青年会全国協議会 代表委員） 全日参加

南鎮秀（カルバリー・バプテスト高尾キリスト教会 / 宣教師） 全日参加

白吉鉉（カルバリー・バプテスト高尾キリスト教会 / 宣教師夫人） 全日参加

James Broughton（在日大韓基督教会神戸教会信徒） 全日参加

5月16日（月）

日暮里駅を11時30分に出発し、東北道経由で仙台に到着（17時30分）

宿泊は日本キリスト教団仙台北教会（小西望牧師）所有の研修所、セツ浜ジレットハウスにて。

5月17日（火）

10時15分に東松島市東名の現場に到着。日本キリスト改革派東仙台教会のボランティアチームに合流。10時30分作業開始。日本国際飢餓対策機構の吉田さんの指揮の下、終日、佐藤さん宅にて、床下の泥のかき出し作業。作業終了15時30分。

5月18日（水）

10時15分、前日と同じ現場に集合。改革派東仙台教会、Crash Japan、日本国際飢餓対策機構と共に、

オリエンテーションの後、祈りを持って作業を開始。終日、千代窪さん宅の一階の壁の撤去。作業終了16時。許伯基はNCC書記業務のため、この日は作業に参加せず。

5月19日（木）

10時15分、前日と同じ現場に集合。改革派東仙台教会、Crash Japan とともに、祈りを持って作業を開始。終日、千代窪さん宅の一階の壁の撤去。作業終了15時30分。

夕方、許伯基のみ仙台教会を訪問、徐東一牧師と食事および歓談。仙台教会のこれまでの状況を聞く。韓国へと引き上げてしまった信徒がいる一方で、帰ってきた信徒、あるいは石巻などの被災地から移ってきた新しい信徒がいる。また一時避難した信徒と残った信徒との間に溝ができ、残った信徒のうち、避難した牧師に不信感を持ち、教会に出てこなくなった信徒がいる、とのこと。また、震災後の総会、地方会の対応（物資支援など）に不満と失望を禁じ得ないとのこと。

5月20日（金）

10時30分、前日と同じ現場に集合。改革派東仙台教会、Crash Japan とともに、祈りを持って作業を開始。終日、千代窪さん宅の一階の壁の撤去。白吉鉉さんは及川さん宅にて床下の泥のかき出し作業。作業終了15時30分。

作業終了後、許伯基は教団東北教区センター（エマオ）にて東北ヘルプの会議に出席。

5月21日（土）

9時30分にセツ浜ジレットハウスを出発、10時30分に仙台北教会に到着。小西望牧師から教会の被害状況を説明してもらう。（献金1万円）。11時に仙台北教会を出発、17時に東京駅着、南鎮秀牧師より被災地ボランティア活動へ献金（3万円）解散。

2) 青年会全国協議会

*今のところ全協として震災のことについて公式に動けてはいません。

しかしいったん、代表委員個人の活動としては以下のような形での活動があります。

- ・2011年5月3日～4日（休日）青年会関東地方連合会・春の修養会
場所：河口湖、内容：プログラム内に「東日本大震災とKCCJ」という形で震災を振り返る発題の時間で共有。在日大韓基督教会の被災地ボランティア派遣計画を広報
- ・5月15日（日）NCC 青年委員会会議
場所：福音ルーテル本郷教会 内容：毎年、NCC 青年委員会主催のエキュメニカルユースの集いについて、「3・11の祈り」というテーマで実施することを決定。
- ・5月16日（月）～21日（金）第二次被災地ボランティアに参加
参加後、ボランティアに参加したい旨を表明している教会青年と情報を交換。
- ・5月26日（木）「外国人への支援」情報交換会に参加
場所：在日本韓国YMCA 内容：被災地の外国人支援NPO・市民団体の情報交換
- ・現在、青年主日祈祷文を、この被災の問題に関連させて祈ることが出来るように作成中。
- ・6月18日に全協中央委員の会議があるので、そこでまた議論をしていく予定。

3) 関東地方会

4) 全国教会女性連合会